

記者会見要旨

日 時：平成 23 年 7 月 1 日（金）午後 4 時 30 分～午後 5 時
場 所：J A S D A Q－O S E プラザ記者会見場
出席者：前会長、島崎副会長（自主規制会議議長）、古賀副会長
（証券戦略会議議長）、増井副会長、大久保副会長・専務理事

冒頭、増井副会長から本協会の新ロゴマーク、ホームページのリニューアルなどについての説明及び臨時理事会の審議事項の概要についての説明が行われた後、副会長及び会長の挨拶、並びに質疑応答が行われた。以下はその大要である。

（島崎、古賀副会長及び前 会長挨拶）

（島崎副会長）

ただいまご紹介いただいた島崎でございます。この協会の副会長、自主規制会議 議長という重責を担うことになり、身が引き締まる思いである。よろしくお願いしたい。

私は、住友商事の資本市場からの資金調達としてエクイティファイナンスや社債の発行など、あるいは余資の有価証券運用、自社の年金資産の運用などを通して証券会社との関係が長かったわけである。この 10 年ほどは、経団連の資本市場部会長、金融審議会の委員、あるいは東京証券取引所の上場整備懇談会の委員などを通して、会社を離れた立場でも証券市場に関係してきたわけである。

本日、「当面の主要課題」の中で、特に「国際的に高い信頼を有する金融・資本市場の確立」という項目があるが、これまで社外の業務を通しての経験・知見を協会の業務に生かせればと思っているので、よろしくお願いしたい。

（古賀副会長）

野村證券の古賀でございます。

戦略会議の議長と併せて副会長も引き続き務めて参ることとなった。

リーマンショック後の金融市場の混乱から、ようやく落ち着きを取り戻しつつあった最中に大震災が起こったこともあり、昨今の市場はご承知のとおり、しっかりとした足取りのマーケット環境ではないと思われる。ただ逆に言うと起こった事を悔やむより、起こったことをベースにどう変えていくかということが、我が国、市場関係者に対し与えられた命題のような気がしている。

このような時こそリスクマネーをきちんと活用しいろんなセクターに資金を回すことが、金融の役割として、非常に大事な時期のように思います。ただ昨今の国全体の動きを見るとそうならないもどかしさがあるのも事実である。

ただもどかしさにめげずに、そうした金融の流れというものが出来るように精一杯尽力して参るのでよろしくお願いしたい。

(前 会長)

昨年協会長に就任し、今年ももう一年やらせていただくことになった。よろしくお願いしたい。就任1年目は、「証券業への信頼の向上」と「役職員の倫理・行動規範意識の向上」という2つの重要課題に取り組んできた。

「信頼の向上」については、「証券市場の新たな発展に向けた懇談会」を昨年9月に設置し、4万1千件を超える大規模なアンケート調査を実施しました。その中から課題を抽出し、議論を重ね、本年6月に、お手元に配付した報告書が取りまとめられた。

アンケートにお答えいただいた利用者の皆様、アンケートを集めていただいた証券会社の皆様、懇談会の委員の皆様、分科会の主査をお願いした野村総研の大崎氏、大和総研の川村氏、ソフィアバンクの藤沢氏、オブザーバーで参加していただいた関係者の皆様、並びに報道関係者の皆様には心より御礼申し上げます。

お手元の懇談会のレジュメをご覧ください。「市場仲介者と投資家のより強い信頼関係の構築」、「今後の社会構造の変化を見据えた適切な対応の促進」、「投資家がより一層信頼できる投資環

境づくり」という3つのテーマに沿って、本協会に6つの提言をいただいた。これらを本年度の主要課題に取り入れ、積極的に取り組んで参りたい。

次に、倫理行動規範意識の向上については、昨年10月、本協会において、行動規範委員会を格上げし、最重要委員会の一つに位置付けた。今までの役割に加えて、証券会社等の役職員の倫理行動規範意識の向上に資する機能を追加した。

また、本協会の役職員研修や内部管理統括責任者研修に、私を含め、行動規範委員会のオブザーバー（証券会社の経営経験のある方）を派遣し、「倫理行動規範意識の向上」についての講話を必ず行うようにした。

本年度も、証券業に携わる役職員が高い倫理観、高い行動規範意識のもとに活動するよう、努力していきたいと思う。また、「当面の主要課題」に取り上げた諸課題について全力で取り組んで参りたい。

次に、本年3月11日に発生した東日本大震災は、原発事故を誘発し、我が国に危機的な状況をもたらした。千年に一度と言われる大震災だが、一日でも早く被災地の皆様の生活の安定と被災地の復旧・復興、原発の処理を成し遂げなければならない。その為には、日本経済の再生と新たな発展こそが、この未曾有の大震災を乗り越える為に必要不可欠だと考えている。本協会の大震災への取組みについても、「当面の主要課題」に取り入れている。

我が国経済の一翼を担う証券市場の発展のため、本協会は今年も全力を尽くして参るので、皆様の力強いご支援、ご助言を賜るようよろしくお願い申し上げます。

最後に、今般、上場株式等の譲渡益及び配当金等に対する軽減税率を2年間延長する法律が成立した。ご尽力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

（以下、質疑応答）

（記者）

新体制おめでとうございます。本日、7月1日は電力使用制限令が発動されるわけだが、この電力使用の制限を乗り切ることができるかがこの夏の日本経済の大きな課題となっていると思う。そこで、電力使用、電力需給不安が経済及び金融・資本市場に与える影響について会長の見解を伺いたい。

（前 会長）

経済活動には大きな影響があると思っている。今年は15%の節電という方針のもとで全国民が協力するという事となったが、これも生産活動においてはサプライチェーンの寸断などの影響がでるのではないかとと思っている。

しかし、問題はその後の電力供給についてである。原子力発電の稼働を認めていくのか、止める場合その間どうするのか、ということについて本当に議論を重ねて早く対策を立てないと、様々な企業が電力供給を求めて生産基地を海外に移していくなどということに直面するのではないかと危惧している。

だから、早く方針を決めて対策を打つということが一番であると思っている。

（記者）

確認だが、会長が述べている「方針」というものは、具体的にどのようなものなのか。

（前 会長）

今、原子力発電の稼働について、政府の要請のもとに対応を行っているが、あくまでも要請であるので、これに従うところやそうでないところもでてきているわけである。

このような問題も早くどの方向に行くのか、原子力発電の占める割合が概ね東京電力は30%、関西電力は40%超を占めている現状に

において、東京電力、関西電力管内の原子力発電所が休止していったら再開できないといったときに、今後どのようにしていくのかという方針を政府も民間も立てて、その後の対処を迅速に行っていく必要があるということである。

（記者）

島崎副会長も参加されている企業会計審議会で、国際会計基準の適用について検討がされているが、強制適用すべきかどうかという問題を始めいろいろな議論が出ている。準備期間をおくとなると、3つの会計基準がこのまましばらく続くことになる。

日証協として、この議論についてどう考えるかを聞かせていただきたい。

（前 会長）

本協会がどうこう言うべき問題ではないと思うが、関係者にはよく議論をしていただきたい。個人的な意見としては、国際会計基準が早く日本にも根付くような環境整備をしていかなければならないと思っているが、今回の大震災の問題もあり、諸般の事情で遅れている。アメリカの方でも若干変更があったと聞いているが、拙速に日本から先行してやっていいのかという問題も含めて、関係者に皆様でよく議論していただきたい。私どもも、そうした議論に参加させていただく機会があれば、意見を申し上げていきたい。

（島崎副会長）

日証協の副会長の立場からは少々離れてしまうかもしれないが、会計基準は金融資本市場のインフラであり、このインフラが国際的にきちんと信認されるものなのかということが、我が国における「国際的に高い信頼を有する金融・資本市場の確立」にも繋がってくると思う。

その際、世界が今どのような流れになっているかを見誤ってはならない。2009年6月に企業会計審議会が日本版ロードマップを出し、2010年3月からIFRSの任意適用を認め、2012年を目途に強制適用

についての判断をするということを決めたわけだが、これは世界の流れに取り残されてはならないという流れの中での対応であった。

会長も言われたように、アメリカや中国の動きを見ていく必要があるが、各国とも国際的な会計基準はシングルセットの高品質なものにしなければならないという G20 のサミットでの提言を支持している。どの基準が軸になって国際的に統一されていくのかということだが、アメリカ基準なのか IFRS なのかという中で、大きな流れからすると IFRS が中心になると思う。そうした中心的な流れは見誤らずに、議論は大いにしていただければと思う。

日本だけが、日本固有の基準を使っているが故に国際的に信認されずリスクマネーが日本に入ってくないというマーケットになってはならないと考えている。

（記者）

先ほどの IFRS の件で、会長から「意見を求められれば述べていく」とのことであったが、具体的にどのような意見を述べていくつもりか、見解があれば伺いたい。

（前 会長）

先ほど述べた見解以上のものは持ち合わせていない。島崎副会長などからご意見を伺った上で、本協会としてできる限りのことはさせていただきたいと思っている。

以 上